

(仮称) 2040なりたい未来(基本構想素案)及び パブリックコメント手続の実施について

2019年5月に策定方針を定め、町田市基本構想・基本計画「(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040」の策定を進めております。策定にあたり、市民の皆様との意見交換などの取組を進めるとともに、町田市長期計画審議会において審議をいただいております。

今回は、「(仮称)2040なりたい未来」(基本構想素案)と今後実施するパブリックコメント手続及び第5回町田市長期計画審議会における基本計画部分の検討状況について報告します。

1 「(仮称)2040なりたい未来」(基本構想素案)について

- (1) 「(仮称)2040なりたい未来」(基本構想素案)概要・・・別紙1
- (2) 「(仮称)2040なりたい未来」(基本構想素案)・・・別紙2
- (3) キャッチコピー候補について・・・別紙3

2 パブリックコメント手続について

- (1) パブリックコメント手続に関するスケジュール・・・別紙4

3 基本計画部分の検討状況について

- (1) 「(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040(基本計画部分)」策定の基本的な考え方・・・別紙5
- (2) (仮称)まちづくり基本目標体系案・・・別紙6
- (3) (仮称)経営基本方針体系案・・・別紙7

4 今後の策定スケジュールについて

- (1) 「(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040」策定スケジュール概要・・・別紙8

(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040

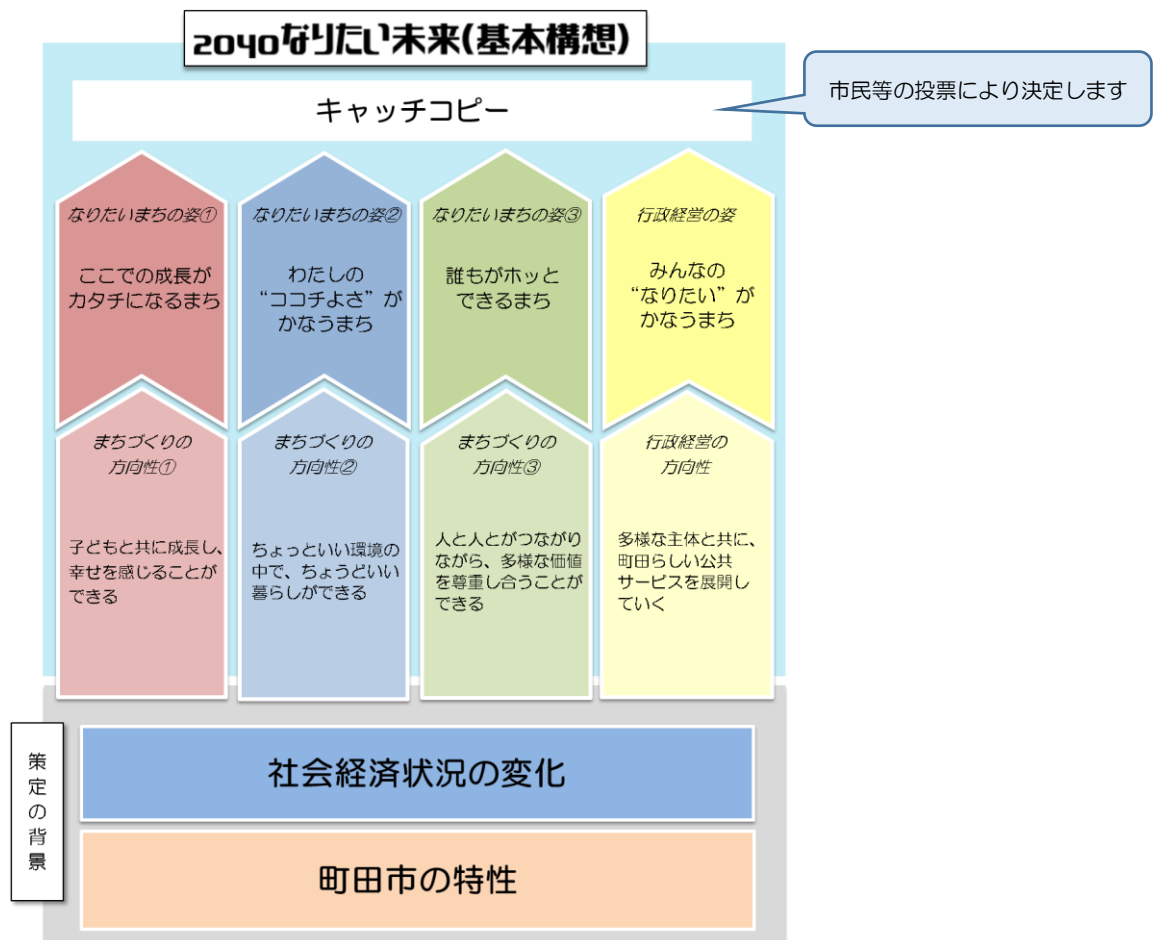
「(仮称) 2040 年 なる たい 未来」(基本構想素案) 概要

町田市基本構想・基本計画が2021年度をもって終期を迎えることから、新たな基本構想・基本計画として「(仮称) まちだ未来づくりビジョン2040」を策定します。このビジョンは、市民団体や地域団体、市内事業者など町田市に関わるすべての方々が、共に目指していくものです。

策定にあたっては、地区別意見交換会や各種ワークショップ等を開催し、市民と協働検討を進めてきました。町田市長期計画審議会においてはこれらを踏まえて審議を重ね、このほど同審議会から中間報告が提出されました。市ではこの中間報告をもとに「(仮称) 2040 年 なる たい 未来」(基本構想素案)を策定しました。

構成等については以下のとおりです。

1 構成



町田市の特性や社会経済状況の変化を踏まえ、2040年に向けた「まちづくりの方向性」、「行政経営の方向性」と、それらに沿って市営運営を進めた先にある「なる たい まち の 姿」、「行政経営の姿」を定めました。そして、未来の町田市のイメージをキャッチコピーとして打ち出します。

2 計画期間

2022年度から2039年度までの18年間

3 将来人口

2040年1月1日時点の人口を40万人と想定します。

(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040

「(仮称) 2040 なりたい未来」(基本構想素案)

2020年5月

町田市

(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040
 「(仮称) 2040 年 なるたい未来」(基本構想素案)
 目 次

<はじめに>

第 I 章	(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 がはじまります	2
1	(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 策定の趣旨	2
2	(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 の位置づけ	2
3	(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 の構成と期間	3
4	(仮称) 2040 年 なるたい未来の構成	4
5	(仮称) 2040 年 なるたい未来の策定過程	5

<基本構想>

第 II 章	(仮称) 2040 年 なるたい未来	7
1	2040 年の町田市のイメージ	7
2	なるたいまちの姿とまちづくりの方向性	8
3	行政経営の姿と方向性	14
4	将来人口	16

<策定の背景>

第 III 章	(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 策定の背景	18
1	町田市はこんなまちです	18
	(1) 町田市はここに 있습니다	18
	(2) 交通の結節点とされています	18
	(3) 子育て世帯から選ばれています	20
	(4) 子どもにやさしいまちです	23
	(5) みどりがいっぱいあります	23
	(6) 商都町田と呼ばれています	24
	(7) 大学も学生もたくさん	25
	(8) 地域活動が盛んです	26
	(9) 町田で地球温暖化はすすんでいるのか	27
2	社会経済状況の変化	28
	(1) 人口減少と人口構成の変化	28
	(2) テクノロジーの発展	29
	(3) 都市構造の変化	30
	(4) 公共施設の老朽化	31

<はじめに>

第 I 章 (仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 がはじまります

1 (仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 策定の趣旨

日本全体の人口は、2008 年の 1 億 2,808 万人をピークに減少局面に移行し、町田市の人口も 1958 年の市制施行以来、一貫して増加を続けていたものが、2018 年に初めて減少に転じました。

2040 年には団塊ジュニアと呼ばれる人々が 65 歳以上の高齢者となり、2004 年に約 16% だった高齢者人口の割合は約 37%¹にまで増加することが見込まれています。対して、約 70% だった生産年齢人口の割合は約 53%にまで減少するという推計が出ています。

一方、近年の AI（人工知能）や ICT（情報通信技術）等の急速な進展は、より多様で柔軟な働き方ができる社会を実現させていっています。また、世の中の消費動向が“モノ”から“コト”へと転換、更には時間や目的の共有を重視する方向へシフトするなど、私たちの生活は変革の時を迎えています。

町田市では、このような社会経済状況や人々のライフスタイルの変化を大きなチャンスと捉え、誰もが夢を描くことができ、幸せを感じられる未来をつくるために、「(仮称) まちだ未来ビジョン 2040」を策定します。

2 (仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 の位置付け

「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」は、市民や地域団体、市内事業者など町田市に関わるすべての方々が、共に実現を目指していくビジョンとし、その実現に協力していただける人から新たに関わりを持っていただける人まで、多くの方を惹きつける魅力的なビジョンとして策定します。

そして、町田市におけるまちづくりの基本指針を示すとともに、市政運営の基本となるビジョンとします。

¹ P. 28 グラフ「町田市における将来人口の推計結果」を参照

（1）（仮称）まちだ未来づくりビジョン 2040 の構成

「（仮称）まちだ未来づくりビジョン 2040」は、基本構想部分を担う「（仮称）2040 になりたい未来」と基本計画部分を担う「（仮称）まちづくり基本目標」及び「（仮称）経営基本方針」で構成されます。

また、ビジョンの実現に向けて、具体的な事業と取組を示す実行計画（5 カ年計画）を策定します。

① （仮称）2040 になりたい未来

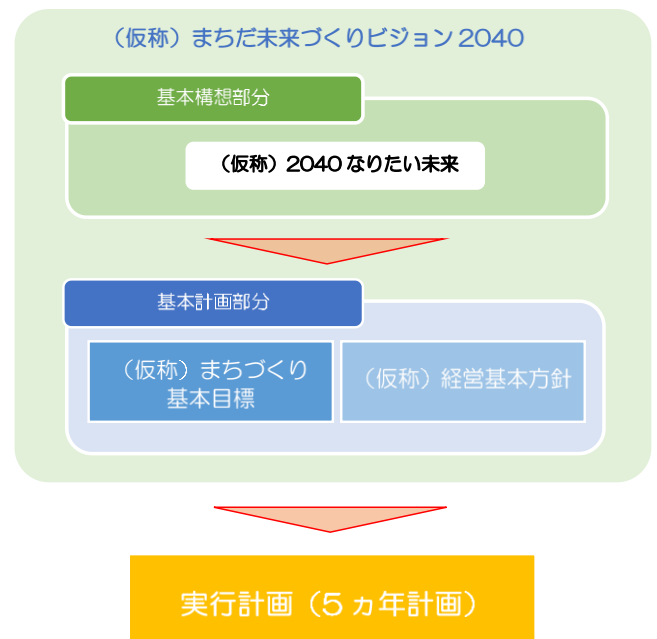
まちづくりの方向性、行政経営の方向性を明らかにし、方向性に沿って進んでいった未来の姿を「なりたいまちの姿」（都市像）、「行政経営の姿」（経営像）として掲げます。

② （仮称）まちづくり基本目標

「（仮称）2040 になりたい未来」で掲げた、なりたいまちの姿に沿った政策・施策を体系的に示し、なりたいまちの姿に至るための目標を設定します。

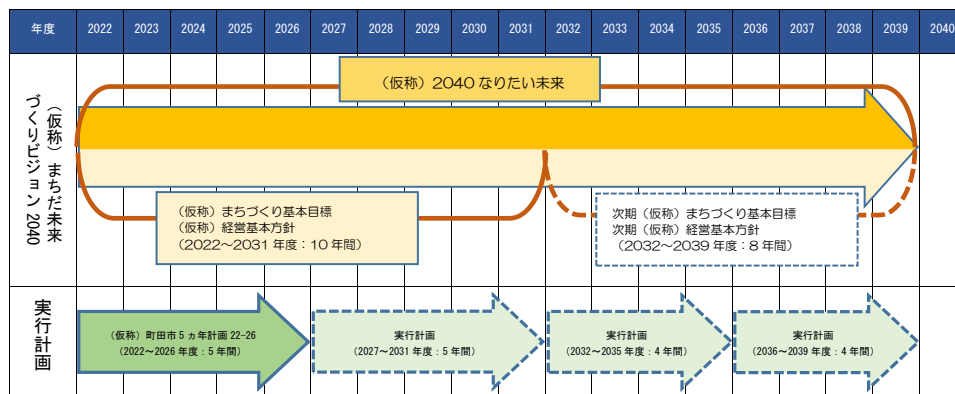
③ （仮称）経営基本方針

「（仮称）2040 になりたい未来」で掲げた、行政経営の姿に沿った取組を体系的に示し、「（仮称）まちづくり基本目標」を支える行政の経営方針を示します。



（2）（仮称）まちだ未来づくりビジョン 2040 の期間

基本構想部分を担う「（仮称）2040 になりたい未来」は、2022 年度から 2039 年度までの 18 年間、基本計画部分を担う「（仮称）まちづくり基本目標」及び「（仮称）経営基本方針」は、2022 年度から 2031 年度までの 10 年間と、2032 年度から 2039 年度までの 8 年間とします。



これまでの町田市のまちづくりは、暮らす人、働く人、訪れる人など、多くの「人」によって支えられてきました。そして、それはこれからも変わらないことであり、多様であることが当たり前の社会においては、一人ひとり生き方の違う「人」が、それぞれのライフステージにおいて活躍できる環境があることがより重要になってきます。

このことを踏まえ、「(仮称) 2040 になりたい未来」では、誰もが夢を持ち、その夢を実現できるまち、一人ひとりが輝けるまちとなるため、町田市のまちづくりの方向性となりたいまちの姿、そして、行政経営の方向性と行政経営の姿を明らかにするとともに、2040 年の未来の町田市のイメージをキャッチコピーとして定めます。



(2) 検討の過程

まちづくりの方向性やなりたいまちの姿、行政経営の方向性や行政経営の姿については、以下のような過程を経て作成しました。

【まちづくり】

1 町田市の良い点・悪い点・改善点や2040年までに必要な環境等について意見交換

みんなの想い・願い

<検討の場>
①地区別意見交換会(タウンミーティング)
②大学生とのワークショップ
③高校生とのワークショップ
④子育て世帯インタビュー
⑤外国人市民インタビュー
⑥市民意識調査

2040年の未来になってほしい町田市の姿をつくるため、地域にお住いの皆様との意見交換会などを開催しました。

2040年

2 まちづくりの方向性を審議

まちづくりの方向性

<検討の場>
①第2回長期計画審議会(2019年10月11日)
②第3回長期計画審議会(2019年12月16日)

1でいただいた意見を基に、まちづくりの方向性を作成しました。

2040年

3 なりたいまちの姿を検討・審議

なりたいまちの姿

<検討の場>
①高校生とのワークショップ
②無作為抽出型市民ワークショップ
③第3回長期計画審議会(2019年12月16日)
④第4回長期計画審議会(2020年2月3日)

まちづくりの方向性を基に、2040年に向けた未来の町田市の姿を作成しました。

2040年

【行政経営】

1 町田市を取り巻く行政経営の主な現状と課題や2040年にかけて起こる主な変化・課題を整理

今後の行政経営のあるべき姿

<検討の場>
①行政経営監視委員会
②学生とのワークショップ
③市政モニターアンケート調査
④行政経営に関する職員意識調査
⑤職員ワークショップ(人材育成基本計画)

2040年を見据えた今後の行政経営について有識者等から3つの重要な視点をいただくとともに、学生や市政モニターの皆様から意見をいただきました。

2040年

2 行政経営の方向性を審議

行政経営の方向性

<検討の場>
①第3回長期計画審議会(2019年12月16日)
②第4回長期計画審議会(2020年2月3日)

「2040年を見据えた今後の行政経営に対する3つの重要な視点」を基に、行政経営の方向性を作成しました。

2040年

3 行政経営の姿を検討・審議

行政経営の姿

<検討の場>
①高校生とのワークショップ
②職員ワークショップ
③第3回長期計画審議会(2019年12月16日)
④第4回長期計画審議会(2020年2月3日)
⑤第5回長期計画審議会(2020年4月28日)

行政経営の方向性を基に、2040年に向けた町田市の行政経営の姿を作成しました。

2040年


4 未来の町田市のイメージを作成

キャッチコピー

<検討の場>
①第5回長期計画審議会(2020年4月28日)
②キャッチコピーの市民投票(2020年秋頃)

まちづくりの方向性と なりたいまちの姿から表される、未来の町田市のイメージをキャッチコピーとして作成します。

2040年

※  は各段階における主な検討対象

第Ⅱ章 (仮称) 2040 年 なりたい未来

1 2040 年の町田市のイメージ

町田市は、2040 年に向けたまちづくりの方向性となりたいまちの姿、行政経営の方向性と行政経営の姿をそれぞれ明らかにし、それらによって表される未来のまちのイメージを「〇〇（キャッチコピー）」と定め、これからの町田市を皆さんと一緒に創っていきます。

キャッチコピー

以下、キャッチコピーの説明文を記載。

※キャッチコピーは町田市長期計画審議会で選定された候補を 2020 年度中に web 投票にかけて決定していく予定です。

なりたいまちの姿 1



ここでの成長がカタチになるまち

2040年という未来のまちの中心的な役割を担い、第一線で活躍しているのは、いまの子どもたちです。人口減少が進む中、子どもたちがずっと住み続けたいと思えることは、将来にわたり選ばれるまちの重要な要素となります。

子どもの頃の素敵な思い出は大人になっても忘れないものです。町田市は、子どもたちに様々な経験やチャレンジの機会を提供するとともに、自由で柔軟な発想を受け入れる環境を整え、まちへの誇りや愛着の醸成につなげていきます。そして、子どもたちが自分の成長を有形・無形問わず何らかのカタチとして実感し、自身の未来を描いてほしいと願っています。

一方で、周りの大人たちが楽しく暮らしていてこそ子どもたちの健やかな成長があります。親や祖父母はもとより、普段子どもとあまり接点のないような大人たちまでもが互いに協力し合って社会全体で子育てしている、そういうことが当たり前ができるまちならば、みんなの心に余裕が生まれ、大人だって成長していくことができるはずです。

子どもと共に成長していった先には、ここで暮らしてよかったと誰もが思えるような、それぞれにとっての幸せのカタチが生まれている、町田市はそんなまちになることを目指します。

子どもと共に成長し、幸せを感じることができる

人口減少という課題に直面する中、2019 年度に行った調査では、町田市の希望出生率は 1.91 という結果が出ています。これに対して合計特殊出生率は 1.24 前後を推移していることから、子どもを産み育てたいと考える人たちの希望がかなっていない状態にあるといえます。

また、将来的にも人口減少が続くことが推計で示されていることから、これから先、町田市は行政サービスを提供している基礎自治体として少子化対策に取り組み、子育ての希望をかなえていく必要があります。


町田市で子どもを産み育てていきたい、また、2人目、3人目をもうけたいと思えるためには、子育てへの不安を払拭できるような、お互いを信頼でき、幸せを感じられる社会であることが求められます。様々な支援があり、ここでなら安心して子どもを産むことができる、子どもが健やかに成長していってくれるという確信が持てる社会であれば、自ずと出生数は増えていきます。

また、子どもの周りに、こうなりたいと思えるような素敵な大人がいることや、自分に関係するまちづくりに参加できること、安全・安心な環境があることなどが、子ども自身がここで育っていききたい、育ってよかったと思えることにつながり、将来の転出抑制、転入促進にもつながっていきます。

人口減少時代にあっては、このように、大人も子どもも未来への希望が持てること、このことを大事にしていく必要があります。

これから先、町田市が持続可能なまちであるためには、少子化という問題を避けては通れません。このことに果敢に取り組む姿勢を示すとともに、町田市で生まれ育った子どもたちに次代の町田市をつくってほしいという願いを込め、(仮称)まちだ未来づくりビジョン 2040 では、「子ども」を起点に、まちづくりの方向性を考えていきます。

子どもにやさしいまちは、高齢者や障がい者など、みんなにやさしいまちです。町田市は 2040 年に向け、親や祖父母、地域など、子どもを取り巻く様々な主体が、子どもと共に成長し幸せになっていくことができるまちづくりを進めます。



わたしの“ココチよさ”がかなうまち

東京の郊外に位置する町田市は、個性的なお店が軒を連ねる中心市街地で買い物や食事を楽しめる一方、市の北部などには豊かな自然があり、アウトドアライフを満喫することもできます。

また、大学や専門学校などが集積した学生のまちという側面や、サッカー、フットサル、ラグビーのホームタウンチームを有するスポーツのまちという側面、国際版画美術館をはじめ、史跡や郷土芸能などを大切にする文化・芸術のまちという側面もあります。

そして、小田急線と JR 横浜線が交差する交通の結節点であること、新幹線駅に程近いこと、多摩都市モノレールが延伸することなど、移動利便性が高いという利点がテレワークの普及などと相まって、市内に軸足を置きながら仕事ができる環境が整いつつあります。

このように町田市は、仕事、学び、遊びなどの拠点機能を備えており、ひとりでもみんなでも、何か行動を起こすのに最適なまちです。2040年においてもこの特性を土台に、思い思いの暮らしを描くことができる環境を提供していくとともに、昨日よりも今日、今日よりも明日と、生活の質の向上をちょっとずつでも実感できるよう日々成長し続けていきます。

ちょっといいちようにいい暮らしの先には、それぞれにとってのココチよさがかなえられている、町田市はそんなまちになることを目指します。

ちょっといい環境の中で、ちょうどいい暮らしができる

2040年を見据えたとき、AIやICTに代表されるテクノロジーの更なる発展、一億総活躍社会の実現に伴う働き手の多様化など、私たちの日々の暮らしや仕事のあり方は今とは大きく異なっていることが予想されます。


時間や場所などにとらわれないライフスタイルが前提となったとき、生活の拠点として町田市が選ばれていくためには、人を惹きつける価値を提供できるまちである必要があります。長く都心のベッドタウンとして人々の生活を支えてきた町田市が提供できる価値を考えたとき、それは特別な何かではなく、居心地のよさや気楽さ、ちょうどよさを感じられる日常というものなのではないでしょうか。

日常の中にあるといいちょうどよさとは、例えば、働くということにおいてであれば、サテライトオフィスやコワーキングスペースなど、近くに働ける場所やビジネスパートナーを見つけられる場所がある、どこかへ出向く際は快適に移動できる交通基盤がある、仕事帰りに買い物や食事を楽しめる魅力的なお店があるなど、ちょっといい環境があるということが挙げられるかと思います。

一方、働き方の変化などによってもたらされる仕事以外の時間、言うなれば自分の時間をどのように充実させるかということも非常に重要です。この点では、みどりを身近に感じることができる、各地域で面白いイベントがたくさんある、誰かのために活動する機会を得ることができる、それらへの交通アクセスが充実しているなど、暮らしを豊かにする物事が周りにたくさんあり、また、それを思い立ったときにすぐ実行できる、ちょうどよく手に入るということが大事になってきます。

都心から程近く、都市機能と自然環境が共存し、広域交通にも恵まれている町田市は、仕事の時間や自分の時間の過ごし方の選択肢がたくさんあり、それぞれにちょうどいい暮らし方を選べるまちです。

2040年に向け、このポテンシャルを更に引き出し、住む人、働く人、学ぶ人、近隣に暮らす人たちまでもがワクワクできる、職住近接に暮らしの楽しさをプラスした生活の拠点となるような、“いいことふくらむ”まちづくりを進めます。



誰もがホッとできるまち

国際化の進展に伴う外国人労働者の増加や、新たなテクノロジーを背景とした働き方の自由度の向上などによって、2040年の町田市は、より一層多様な人が集まるまちになっていることが見込まれます。

様々な境遇や考え方の人が暮らす中にあるには、必要とする人が必要な支え合いの輪に参加できてこそ、地域のつながりの力が発揮されると考えられます。そしてそれは、自ら進んで入っていきたくくなるような、あたたかい寛容に満ちたつながりであることが望まれます。

お互いを尊重し、それぞれがそれぞれにできることを行う、このことを大事にすれば、年齢や障がいの有無などに関わらず誰もが自分の役割や活躍の機会を得られる共生社会を形成することができるのではないのでしょうか。

また、多様な背景を持つ人たちが、自分たちの暮らす地域のことを自分たちで考え決めていくことができれば、これまでなかったような地域ごとの特色が生まれ、居心地がいいと感じられる地域の選択肢が増えることにもつながっていきます。

人と人がつながり、多様な価値を尊重し合える関係性の先には、誰もがホッとできる居場所を地域の中に見つけられている、町田市はそんなまちになることを目指します。

人と人がつながりながら、多様な価値を尊重し合うことができる

私たちの暮らす社会は、子どもから高齢者まで、多くの方が支え合うことで成り立っており、2040年になってもそれは変わらないでしょう。誰もがかつては子どもであり、歳を取れば高齢者になります。支える側、支えられる側のどちらにもなり得ることを思えば、自然と支え合いができてきているような関係性がいつの時代も求められているといえます。

一方で、家族のかたちや友人との距離感、地域との付き合い方など、支え合いの土台となる人と人とのつながりは、時代と共に変化するものでもあるため、それらを受け入れ、みんながゆるやかにつながれることが、まちの魅力の一つとなります。

また、風水害や地震などの大規模災害が発生した際にも、助け合える仲間がいるということは、まちに暮らす人々にとって大きな安心となります。このような点からも、普段は意識していないけれど、いざという時にみんなとつながれるということは、非常に重要であると考えられます。


性別、年齢、国籍などの違いに加え、生き方や信条、住み方の違い、あるいは、地域と積極的に関わっている人、そうでない人など、町田市には様々な人が暮らしています。お互いを認め合い、地域とのつながり方を選びながら、それぞれの持てる力を発揮できる、そんな地域であれば、生涯住み続けたいと思える愛着が生まれるのではないのでしょうか。

更に、多様な人たちが、多様な考え方の下、地域資源の使い方や安全・安心への取組など、自分たちで必要なことを考えて地域をつくり続けていくことができれば、お互いに学び合い、高め合うことで、地域に化学反応を起こせるとともに、まちへの誇りや責任を持つことにもつながると考えられます。

多様性を認め合うことが当たり前の時代にあっては、地域にも多様なあり方があって然るべきであり、そこから新たな価値が生まれてくるはずです。

2040年に向け、このように、温かい人と人とのつながりがあり、どこか懐かしいけど新しさも感じられるまちづくりを進めます。

行政経営の姿



みんなの“なりたい”がかなうまち

人口減少や人口構成の変化、価値観の多様化など社会構造が大きく変化していく中、行政経営においても、これまでに増して多様な公共サービスを展開していくことが求められています。

また、地震、風水害などの自然災害や感染症の拡大などの危機に対しても、これまで乗り越えてきた経験を生かしながら、新たな発想で市民サービスを持続的に提供していく必要があります。

このため、市民、地域、事業者など様々な担い手とともにまちづくりに取り組むことで、これまでにない新たな価値を生み出し、市民一人ひとりのニーズに適したきめ細やかなサービスを提供していくことが、これからの行政経営にとって大切なことであると考えます。

そこで、町田市の持つ情報をオープン化し、町田市の特性や課題を示していくことで、様々な担い手が、その解決に向けて“投資したくなる”“関与したくなる”仕組みをつくります。

また、最先端の技術を活用し、公共サービスのスマート化を進めていくことで快適で利便性の高いまちを実現していくとともに、町田市の持つ魅力と強みをいかした公共サービスを広く展開していきます。

2040年に向けて、多様な主体と共に、市民一人ひとりに最適な公共サービスを展開していくことで、市民の生活をより豊かなものとし、市民それぞれのなりたいを叶える行政経営を目指します。

多様な主体と共に、町田らしい公共サービスを展開していく

町田市の総人口は、今後、減少局面に移行していくとともに、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年頃に高齢者人口がピークを迎えることが見込まれています。

高齢者人口の増加は、医療・介護給付、生活支援等のニーズを高める一方で、人口減少は、日常生活や事業のために必要な担い手を確保することが難しくなるなど、公共サービスの需要と供給の両面において大きな変化をもたらします。

そこで、これまでの行政経営のあり方を改めて見直し、これらの変化に適応したものへとデザインし直す必要があります。

また、AIやIoT（モノのインターネット）、ロボットなど最先端テクノロジーの進化は目覚ましいものがあります。中でも、感染症の世界的拡大を受けたりモータ化の急速な進展は、人々の働き方に大きな変化をもたらしました。テクノロジーを駆使して様々な工夫を凝らし、これまでの窓口中心の公共サービスのあり方を見直すなど、新しい発展の基礎を築くことができれば、市民の生活を快適で利便性の高いものとしていくことが可能となります。加えて、IoTなどにより集約した様々な情報を分析することで市民ニーズを的確に捉え、必要な人に、必要なサービスが、必要な分だけ提供できるようになり、地域の課題に効果的に対応していくことが可能となります。

行政経営においても、このような最先端テクノロジーの取り込みを強力に推進し、市民に上質なサービスを提供していくことが求められていきます。

更に、市民のライフスタイルや価値観は、今後も変化・多様化していくことが予想されます。あらゆる公共サービスを行政だけで提供していくのではなく市民、地域、事業者など、まちづくりに関わる様々な主体との連携を深め、これまでにない多様なサービスを生み出すことができれば、市民一人ひとりのニーズに適したきめ細やかなサービスを提供していくことが可能となります。

そのためには、これまで以上にまちづくりに関わる多様な主体が連携し合う仕組みを作り、人や企業の多彩な知恵と行動を結集して地域課題に対応していくことが重要だと考えます。

多様な主体と共に、町田市の持つ魅力や強みを活かしたサービスを持続的且つ安定的に提供していくとともに、社会経済環境の変化を的確に捉え、あらゆる事態においても迅速かつ柔軟に立ち向う行政経営を進めます。

4 将来人口

2040年における、町田市の将来人口を40万人と想定し、「(仮称)2040 なりたい未来」の実現に向け、皆さんと一緒にまちづくりを進めます。

2040年の将来人口

40万人

第Ⅲ章 (仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040 策定の背景

「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」策定の背景には、以下のような全市的な観点から見た町田市の特性や、将来的な社会経済状況の変化があります。

1 町田市はこんなまちです

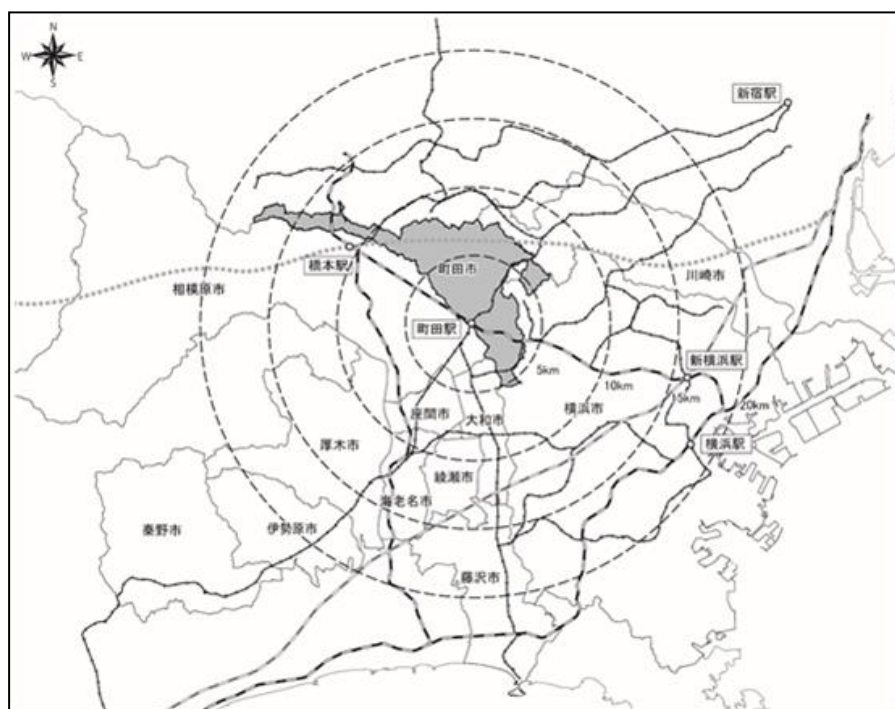
(1) 町田市はここに 있습니다

- 町田市は、東京都の西南端に位置し、都心から西南 30～40km、横浜市中心部から西北 20～30km の距離に位置しています。市域は、東西 22.3km、南北 13.2km、面積 71.55 km²で、多摩地域 26 市の中では 4 番目の広さとなっています。
- 地形は、多摩丘陵の北部域に位置し、市域の南西側は境川によって区切られています。丘陵域は鶴見川、境川の源流域となっているため、都心近郊にありながら、豊かな自然環境を有しています。

(2) 交通の結節点と言われています

- 市域の主要な交通網のうち、鉄道は JR 横浜線、小田急小田原線、東急田園都市線、京王相模原線の 4 路線が通っています。町田駅から新宿駅、横浜駅、ともに約 30～40 分程度で結ばれ、広域的な公共交通の利便性に恵まれているものの、どの路線も市域の外縁部を通過しているため、市内を移動するための主な公共交通の手段はバスとなっています。
- 幹線道路は、市の南端に東名高速道路の横浜町田インターチェンジがあるほか、国道 16 号や国道 246 号といった広域幹線道路へもアクセスしやすい位置にあります。

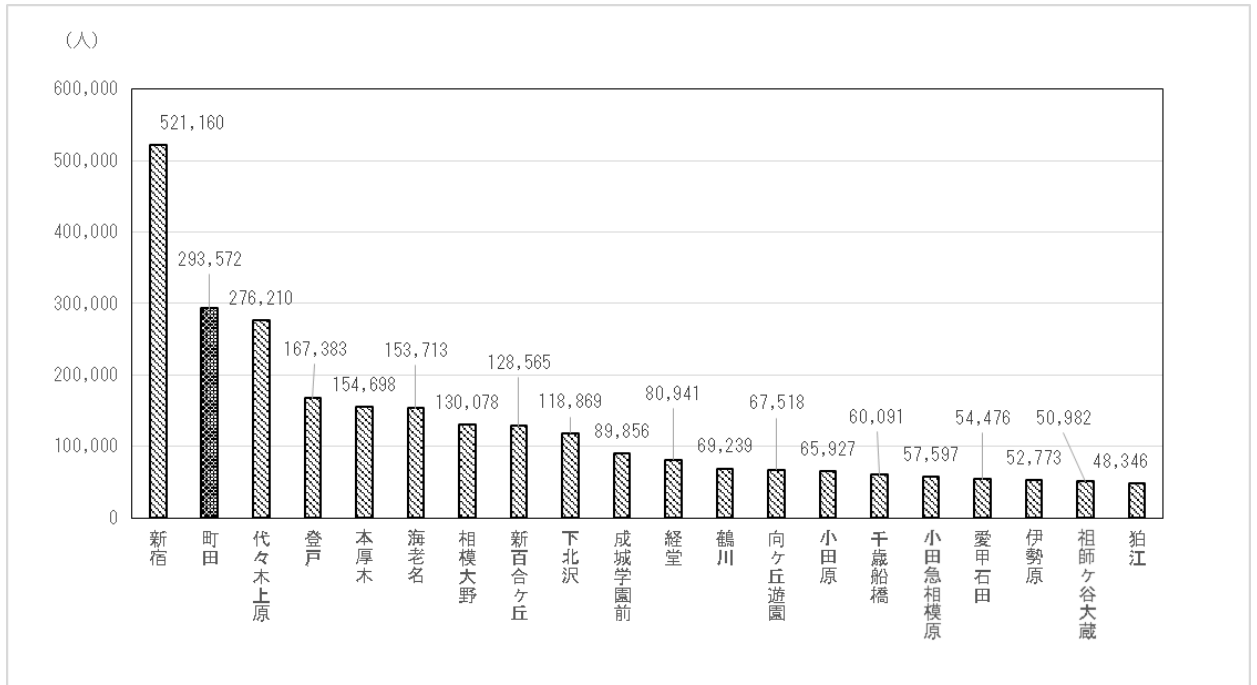
町田市の広域的な位置



○小田急線小田原線と JR 横浜線が交差する町田駅は、その乗降客数が小田急小田原線では新宿駅に次ぐ第 2 位、JR 横浜線では第 1 位になっています。

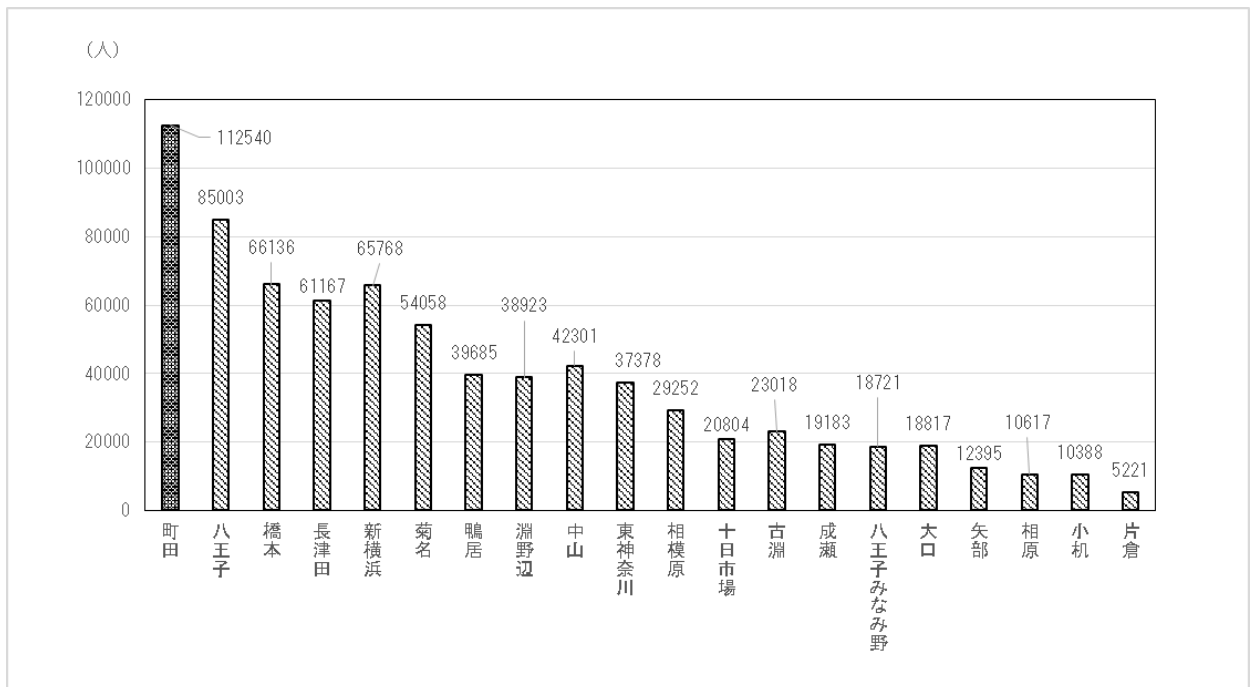
小田急小田原線の駅における乗降客数（上位 20 駅）

出典：小田急電鉄（株）資料（2018 年度）



JR 横浜線の駅における乗降客数

出典：東日本旅客鉄道（株）資料（2018 年度）



(3) 子育て世帯から選ばれています

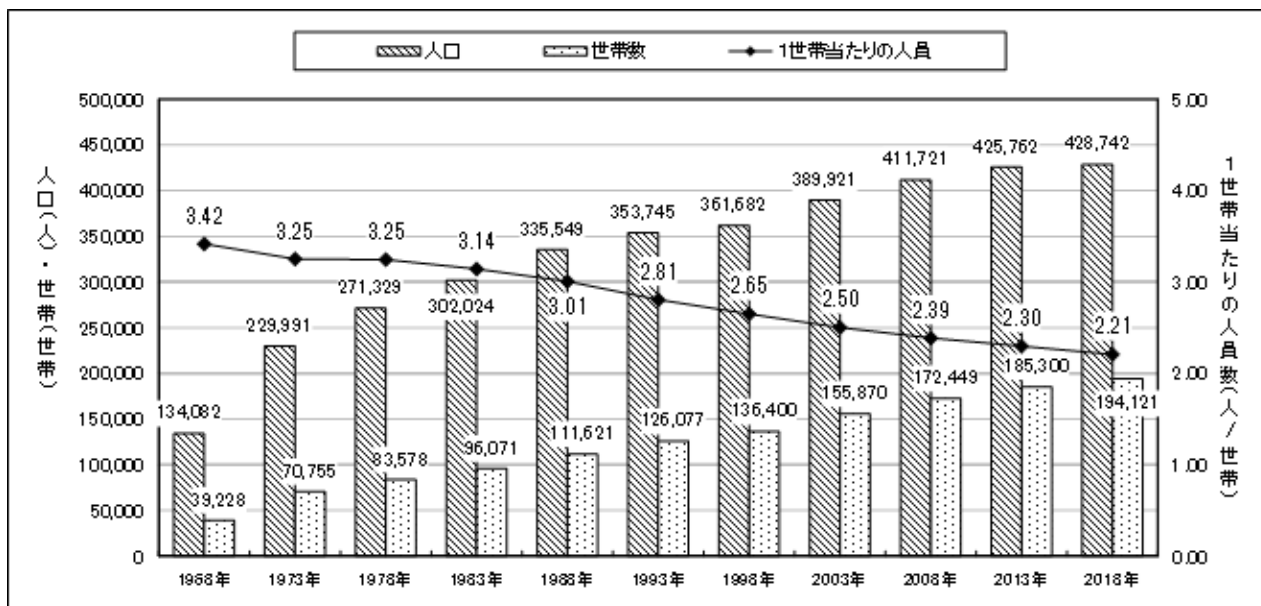
<人口・世帯数>

○2018年1月1日現在の人口は42万8,742人であり、1968年の13万4,082人の約3.2倍となっています。また、世帯数は、2018年1月1日現在では19万4,121世帯で、1968年の3万9,228世帯と比べて約5倍に増加しています。

町田市における人口・世帯数・1世帯当たりの人員の推移

出典：町田市「住民基本台帳人口（各年1月1日現在）」

注）2013年以降は、外国人人口を含む。

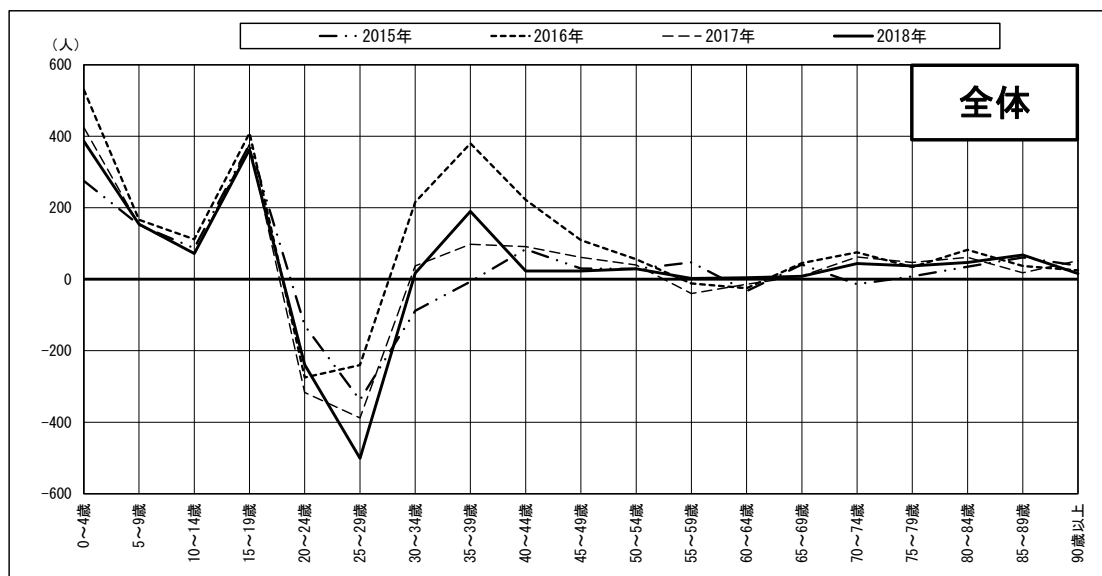


<人口移動>

○「住民基本台帳人口移動報告」に基づき、2015～2018年における社会増減数の推移をみると、0～19歳及び35～44歳は概ね転入超過傾向にあります。対して、20～29歳は転出超過が続いている状況です。

町田市における5歳階級別の社会増減数の推移（全体）

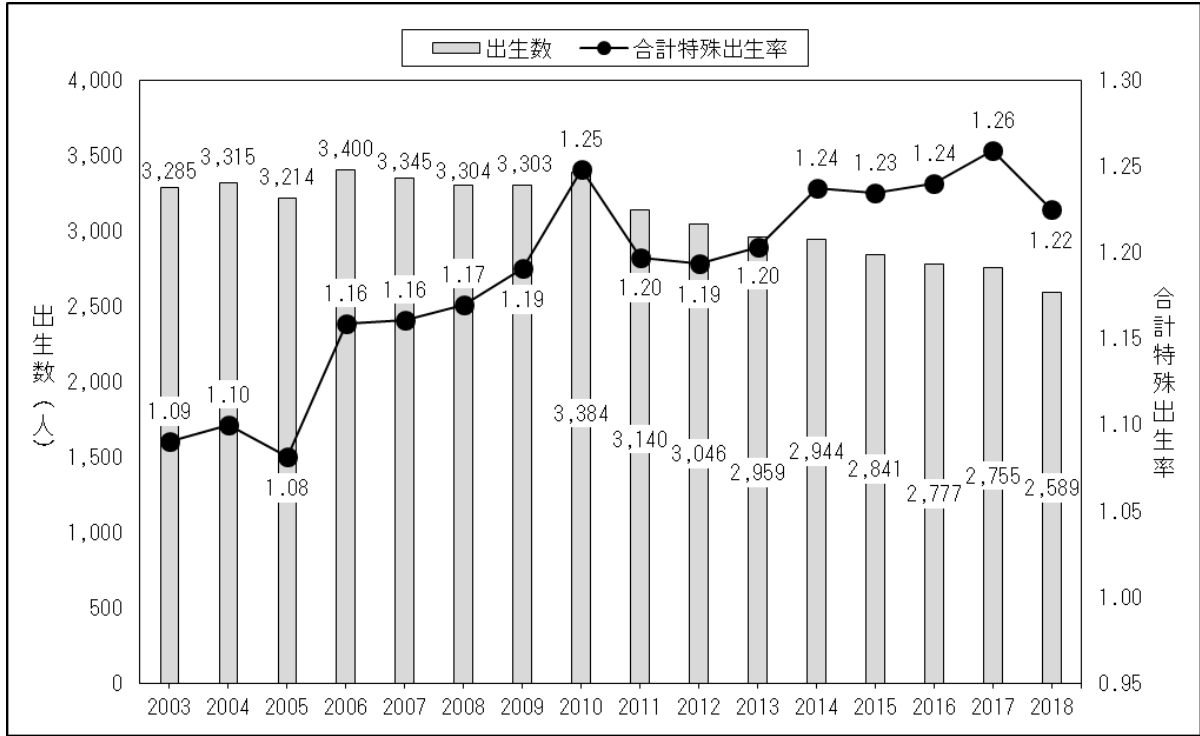
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告（各年）」注）日本人人口のみ。



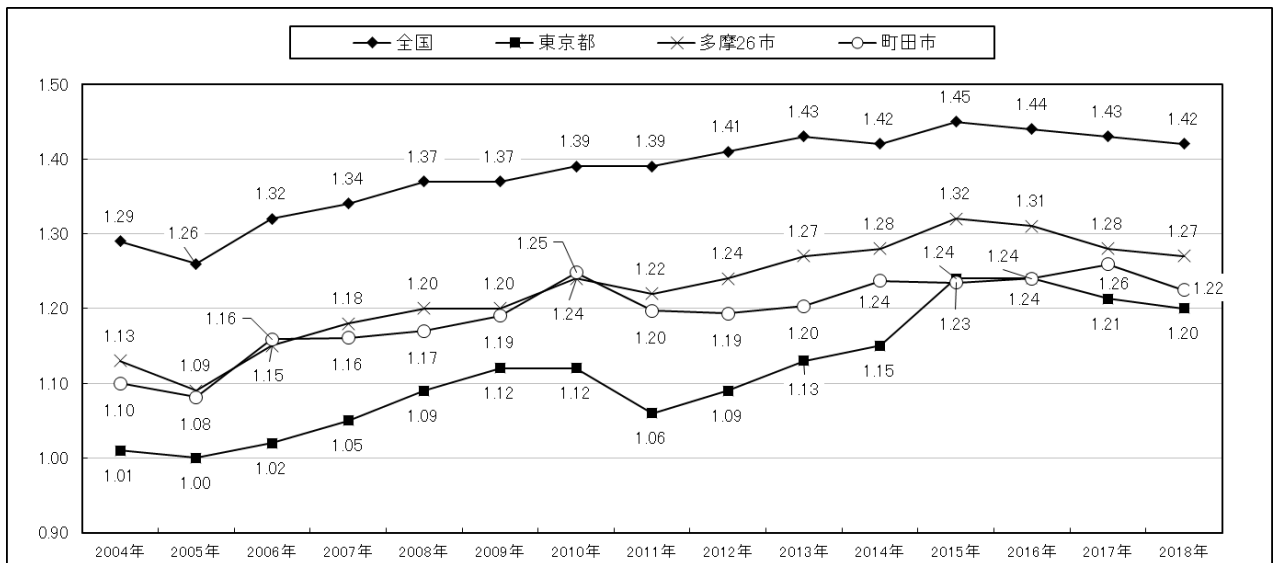
<出生数と合計特殊出生率>

○町田市における出生数を見ると、2010年までは3,200～3,400人前後を維持してきたものの、2011年以降は年々減少しています。一方、合計特殊出生率はおおむね上昇傾向にあり、2017年には1.26となっています。

町田市における出生数と合計特殊出生率の推移
出典：東京都保健福祉局「人口動態統計」



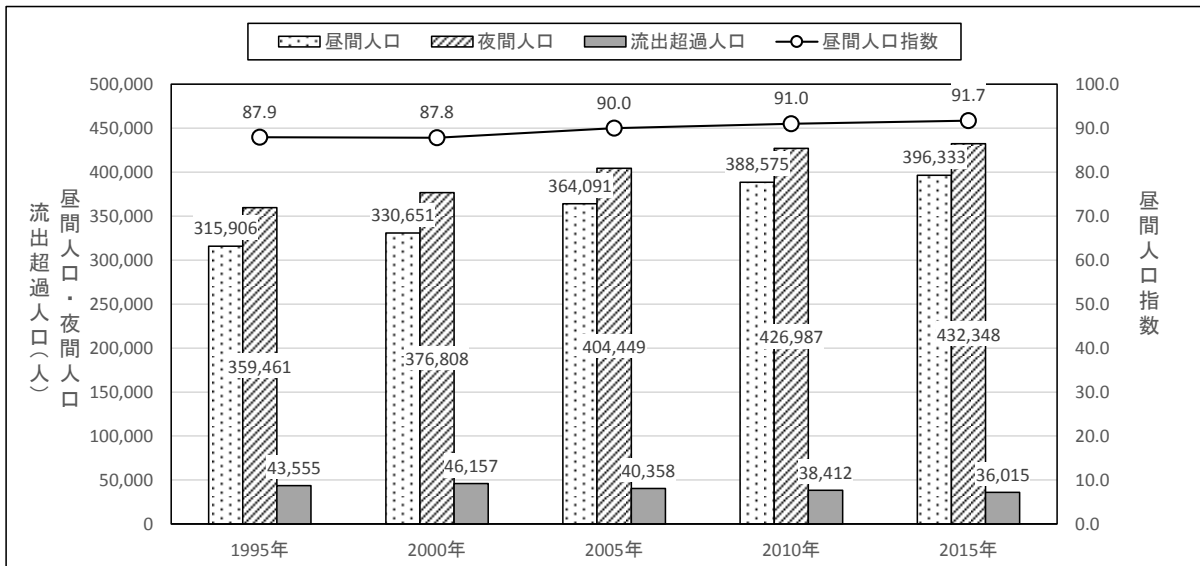
合計特殊出生率の推移の比較
出典：厚生労働省「人口動態統計」



<昼夜間人口>

- 1995～2015年まで一貫して昼間人口は夜間人口を下回っており、流出超過の傾向にあります。流出超過人口は1995年の43,555人から2015年の36,015人へ7,540人(17.3%)減少しており、昼間人口指数は2015年には91.7と1995年の87.9と比較すると3.8増加しています。

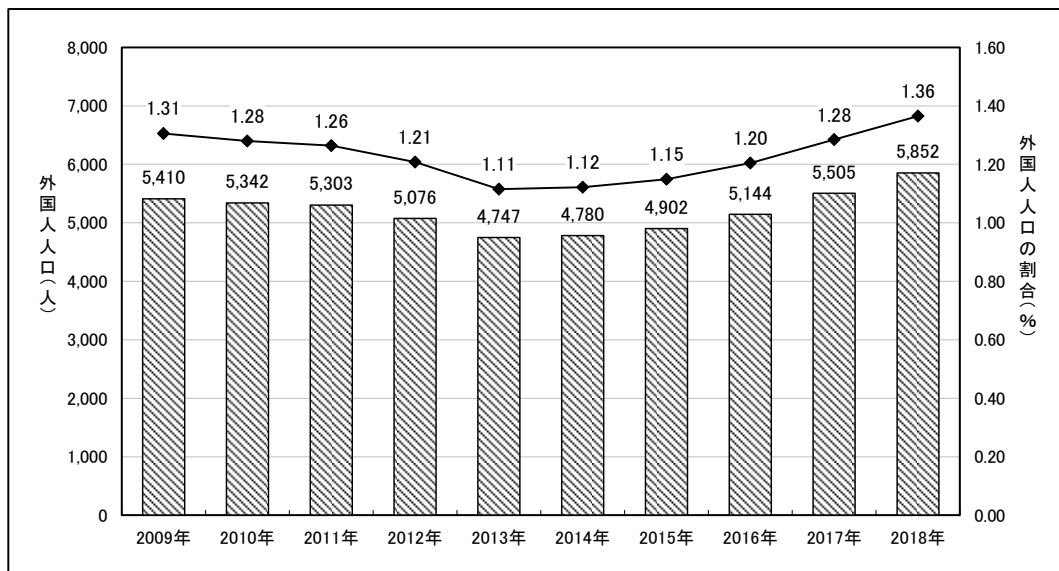
町田市における昼間人口・夜間人口等の推移
出典：総務省「国勢調査（各年10月1日現在）」



<外国人人口>

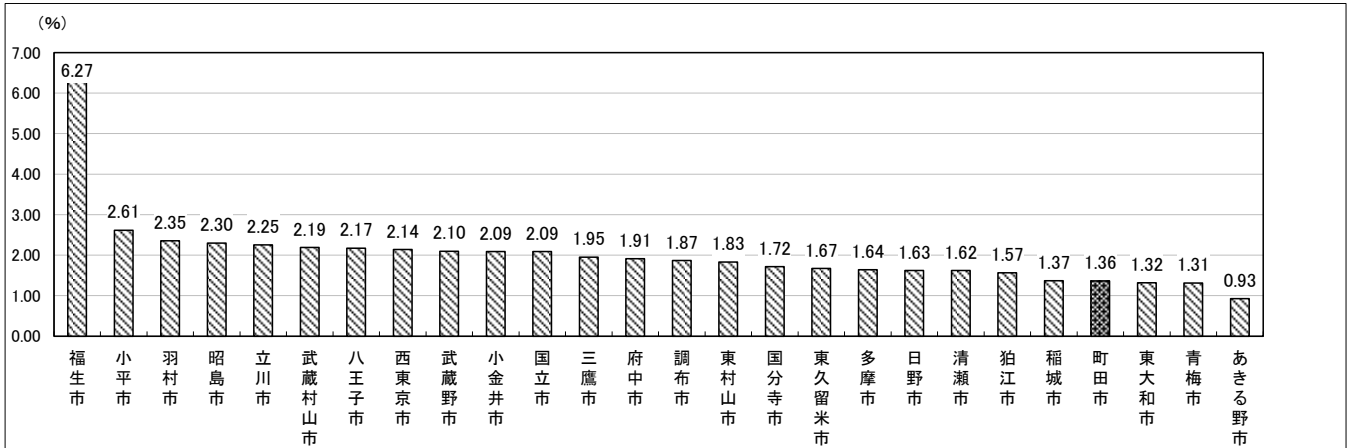
- 町田市の外国人人口は2013年までは減少傾向で推移してきたものの、その後は増加傾向に転じ、2018年には5,852人と2013年の4,747人と比較して1,105人(23.3%)増加しています。また、総人口に占める外国人人口の割合は2018年に1.36%となっています。

町田市における外国人人口の推移
出典：町田市「町田市統計書」



- 外国人人口の割合を多摩 26 市で比較すると、町田市は低い方から 4 番目と相対的に外国人人口の割合が低い水準にあります。

外国人人口の割合の都市間比較（2018 年 1 月 1 日現在）
出典：東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口（町丁別・年齢別）」



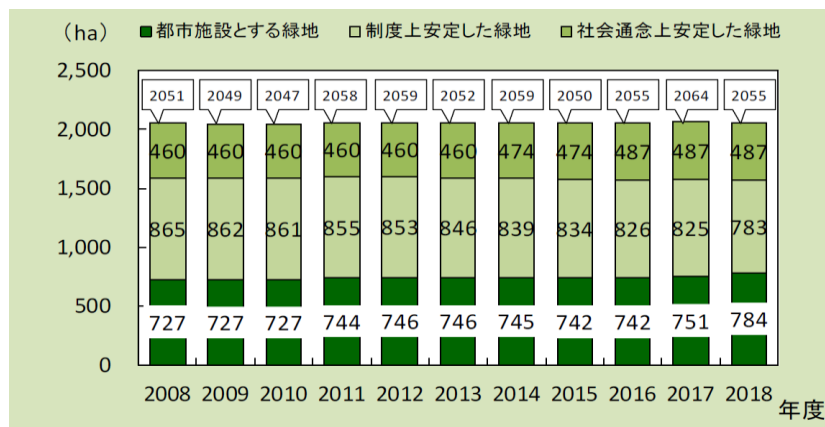
(4) 子どもにやさしいまちです

- 町田市は、保育所等の整備を通じた待機児童解消の取組や、子どもセンターや冒険遊び場の設置等による子どもの居場所づくりが子育て世帯から評価された結果、2016 年の年少人口の転入超過数が全国の市区町村（政令指定都市を除く）の中で第 1 位になりました。
- 市民参加型事業評価では、2017 年度から評価人に高校生を迎えるなど、子どもの参画に関する取組が評価され、(公財)日本ユニセフ協会から「日本型子どもにやさしいまちモデル」の検証自治体として委嘱を受けています。

(5) みどりがいっぱいあります

- 身近な公園等である「都市施設としての緑地」や、生産緑地、風致地区、ふるさとの森に代表される「制度上安定した緑地」、学校や社寺境内地等の「社会通念上安定した緑地」などを含めると、町田市全体の公園等の緑地面積は 2018 年度で約 2,055ha となり、市域面積の 29%を占めています。

町田市における公園等の緑地面積
出典：町田市「町田市環境白書 2019」



○225.9ha、1,066地区の生産緑地(2017年3月31日時点)があり、対市街化面積比は4.1%となっています。また、生産緑地決定面積は多摩26市の中で2番目の広さとなっています。

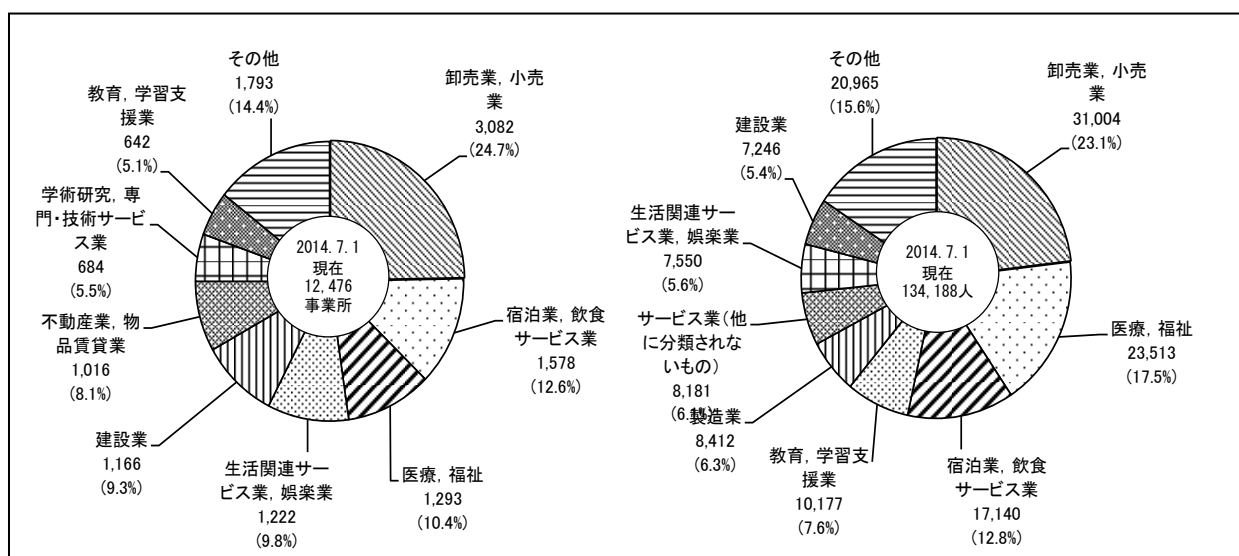
生産緑地面積の都市間比較(決定面積の大きい順)
出典:国土交通省「都市計画現況調査(2017年3月31日)」

順位	市名	市街化 区域面積 (ha)	生産緑地		
			決定面積 (ha)	地区数 (地区)	対市街化 区域面積比 (%)
1	八王子市	7,980	238.8	1,072	3.0
2	町田市	5,481	225.9	1,066	4.1
3	立川市	2,083	203.2	380	9.8
4	清瀬市	1,019	174.2	264	17.1
5	小平市	2,046	169.2	368	8.3
6	東久留米市	1,280	144.4	306	11.3
7	三鷹市	1,650	138.2	303	8.4
8	青梅市	2,183	133.3	719	6.1
9	東村山市	1,696	131.2	335	7.7
10	国分寺市	1,148	127.6	256	11.1

(6) 商都町田と呼ばれています

○「平成26年経済センサス基礎調査」によると、2014年7月1日現在、事業所数では「卸売業、小売業」が最も多く3,082事業所で、次いで「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」の順となっています。また、従業者数でも、「卸売業、小売業」が最も多く31,004人で、次いで「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」の順となっており、「商都町田」と称されるように、商業の存在感が大きい産業構造となっています。

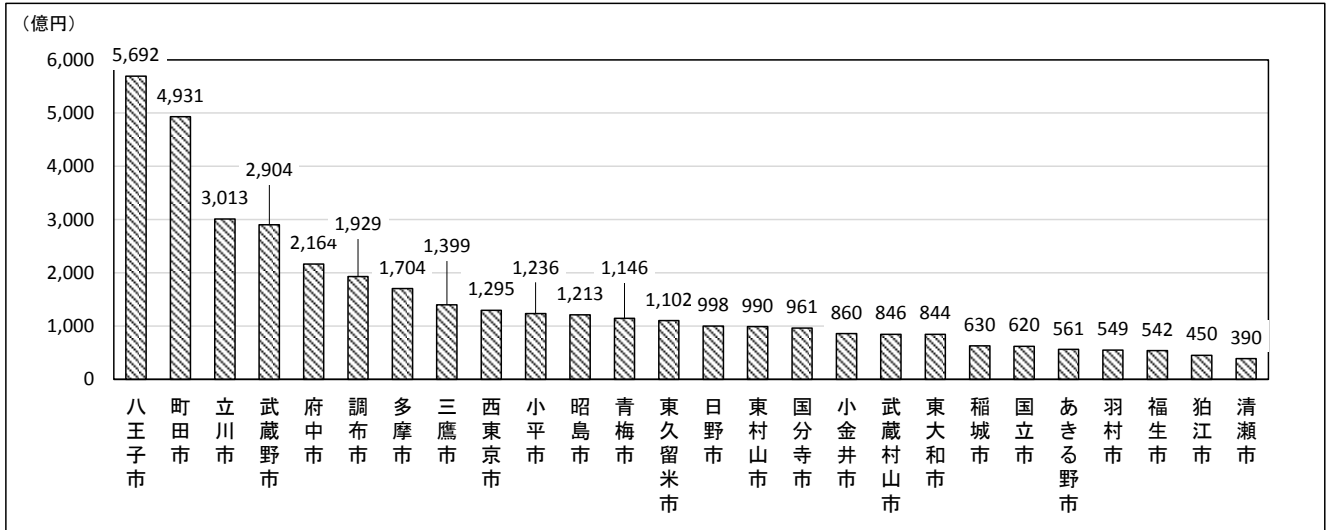
町田市における産業大分類別の事業所数及び従業者数の構成
出典:総務省「平成26年経済センサス基礎調査(7月1日現在)」



- 「平成 28 年経済センサスー活動調査」によると、小売業の年間商品販売額は、八王子市の 5,692 億円に次いで 2 番目に大きくなっています。

小売業年間商品販売額の都市間比較

出典：総務省・経済産業省「平成 28 年経済センサスー活動調査」



(7) 大学も学生もたくさん

- 市内や隣接地域には多くの大学、短期大学、専門学校などがあります。そのため、学生の年代である、15～19 歳の転入超過数が多いという特性があります。
- 教育・文化のまちを形成するため、町田市を生活圏とする大学等と協力して町田市学長懇談会を開催しており、参加校の学生総数（町田圏域）は約 5 万人にのびります。

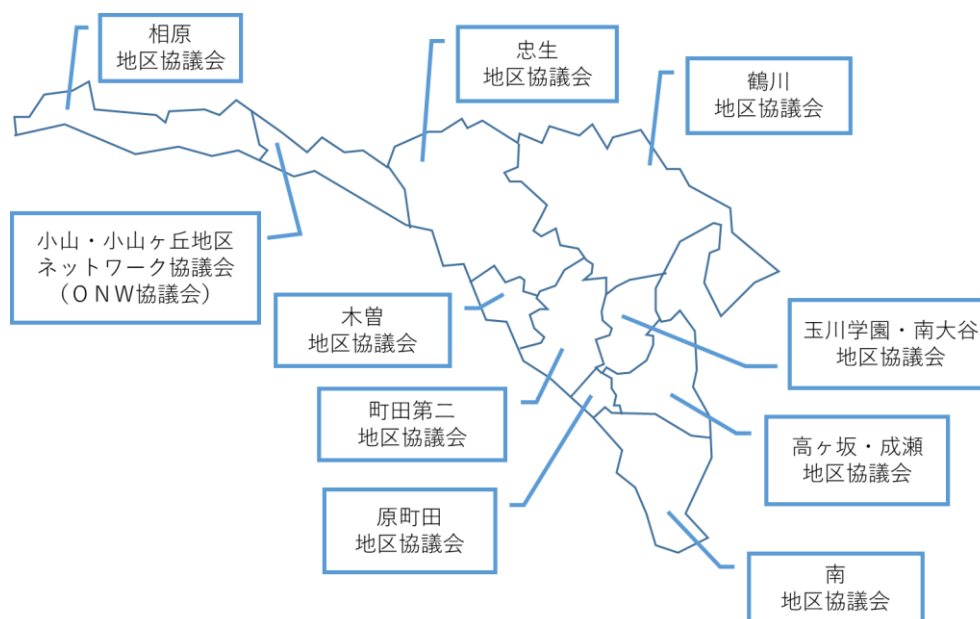
町田市学長懇談会参加校



(8) 地域活動が盛んです

- 町田市町内会自治会連合会の地区連合会、町田市青少年健全育成地区委員会、町田市民生委員児童委員協議会の3団体をはじめとした様々な団体が集まり、知恵を出し合い、協力しながら地区の課題解決や魅力向上に取り組むネットワーク組織「地区協議会」が市内全10地区で設立され、地区の特性に合わせた様々な事業に取り組んでいます。

各地区協議会の区域



- 市民・地域団体・事業者などが、自らの「やってみたい夢」を賛同者の協力を得ながら、主体的に実現させていく取組「まちだ〇ごと大作戦 18-20」に、100万人以上の参加があるなど、市民活動・地域活動に積極的な土壌があります。



【取組事例①】

「町田木曽水かけ祭り」

地域の道路を一部封鎖して、消防団による放水訓練や参加者が水鉄砲を使って水をかけ合う非日常的な取組。町内会・自治会の会員数の増加や消防団員不足の解消、地域のつながりや子どもの思い出づくりにつなげたいという主催者の想いで実施。



【取組事例②】

「ようこそ！鶴川 OMOTENASHI 大作戦」

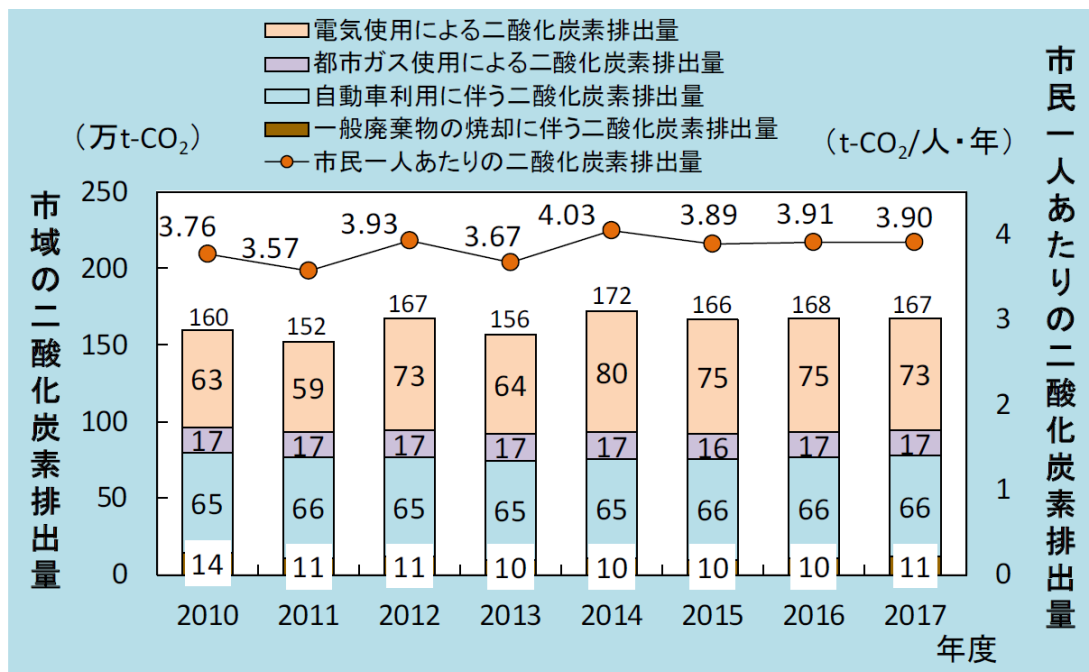
鶴川にある3つの古民家運営者と鶴川地区町内会・自治会連合会が一緒になって、新たな鶴川の魅力づくりを行いたいという想いで、香山園や各古民家で日本文化が体験できる取組を実施。

(9) 町田で地球温暖化はすすんでいるのか

○町田市の2010年度からの二酸化炭素排出量は、年度ごとに変動があります。その内訳を見ると、約44%を電気使用による排出量が占めています。電気使用量から二酸化炭素排出量を計算する際に使用する二酸化炭素排出係数²の変動の影響を受け、増減が大きくなっています。約40%を占める自動車使用による排出量は、ほぼ横ばい傾向にあります。

町田市域の二酸化炭素排出量の変化

出典：町田市「町田市環境白書2019」



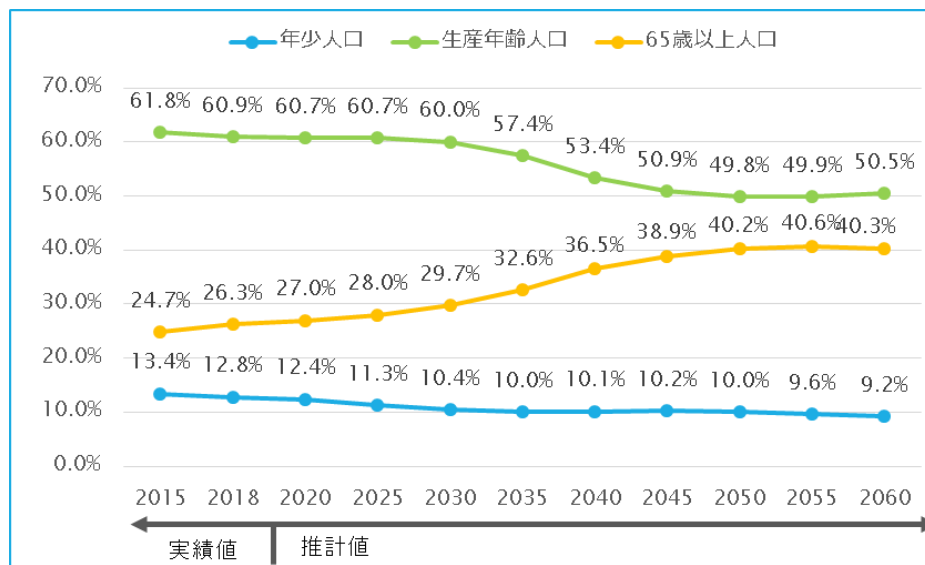
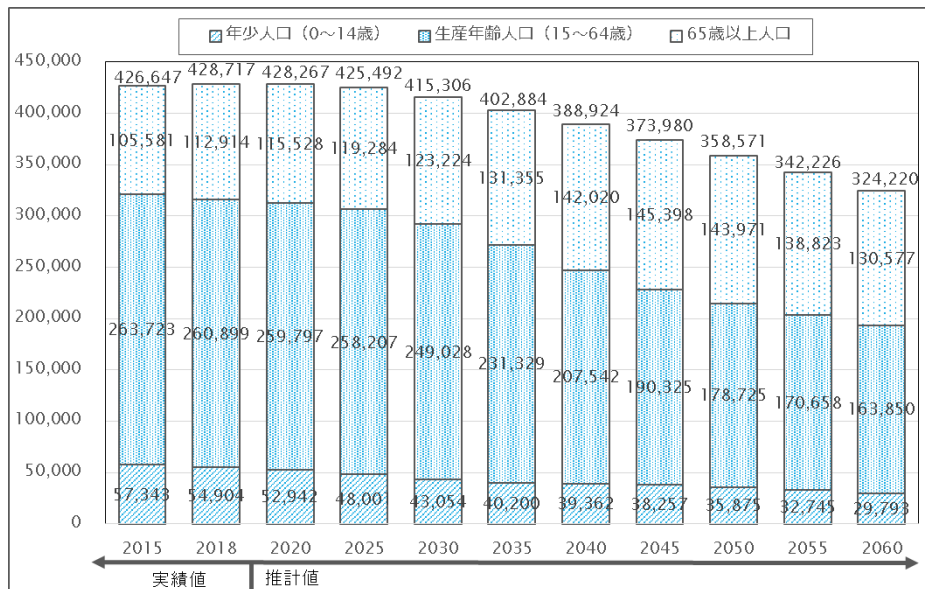
² エネルギー使用量あたりの二酸化炭素排出量を指し、電気の場合は電力会社が一定の電力を作り出す際にどれだけの二酸化炭素を排出したかを示すもの。

2 社会経済状況の変化

(1) 人口減少と人口構成の変化

- 町田市が行った将来人口推計の結果に基づき、2020年以降の推移をみると、近い将来、総人口は長期にわたる減少局面に移行します。その減少幅は年を経るごとに拡大し、2040年には40万人台を割り込むおそれがあります。
- 年齢階層別にみると、0～14歳の年少人口は2025年に5万人台を割り込んだ後、2040年には4万人を切るところまで減少します。同様に、15～64歳の生産年齢人口は2030年頃から減少傾向がより一層進行すると予測されています。一方、65歳以上の老年人口は、一貫して増え続け、2040～2050年には14万人を超える水準に達すると予測されており、特に75歳以上人口は2055年まで増加し続けることが見込まれています。

町田市における将来人口の推計結果



(2) テクノロジーの発展

- 近年、実社会の中であらゆる事業・情報がデータ化され、ネットワークでつながる「IoT」、コンピュータが自ら学習し、人間を超える高度な判断を行う「AI」、多様かつ複雑な作業を自動化する「ロボット」などに代表される、「第4次産業革命」と称される技術革新が世界規模で従来にはないスピードとインパクトで進展しています。

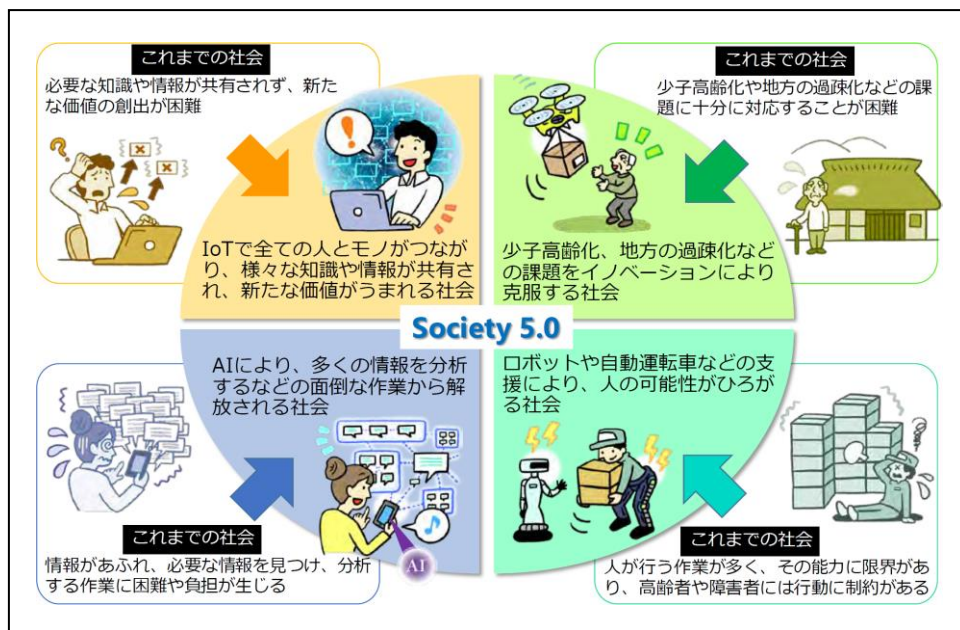
第4次産業革命技術がもたらす変化／新たな展開
出典：日本経済再生本部「未来投資戦略2018 概要（要約版）」

「生活」「産業」が変わる	経済活動の「糧」が変わる	「行政」「インフラ」が変わる	「地域」「コミュニティ」「中小企業」が変わる	「人材」が変わる
① 自動化 ◇ 移動・物流革命による人手不足・移動弱者の解消（自動運転、自動翻訳など） ② 遠隔・リアルタイム化 ◇ 地理的・時間的制約の克服による新サービス創出（交通が不便でも最適な医療・教育を受受可能）	◇ 20世紀までの基盤「エネルギー」「ファイナンス」 → ブロックチェーンなどの技術革新で弱み克服 ◇ デジタル革新時代の基盤「良質なリアルデータ」 → 日本の最大の強みを活かすチャンス	◇ アナログ行政から決別 - 行政サービスをデジタルで完結 - 行政保有データのオープン化 ◇ インフラ管理コスト (設備・メンテナンス)の劇的改善 質の抜本的向上	◇ 地域の利便性向上 活力向上（自動走行、オンライン医療、IoT見守り） ◇ 町工場も世界とつながる 稼げる農林水産業 若者就農 ◇ 中小企業ならではの多様な顧客ニーズへの対応	◇ 単純作業や3K現場でAI・ロボットが肩代わり ◇ キャリアアップした仕事のチャンス ◇ ライフスタイル/ライフステージに応じた働き方の選択

- 今後、AI やロボット等によって、様々な分野で自動化が進むとともに、画質や音質が飛躍的に進歩した IoT 技術により国民生活の利便性や生活の質が向上することが大いに期待されており、国は、「第5期科学技術基本計画³（2016年1月閣議決定）」の中で、必要なモノ・サービスを、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らせる「Society5.0（超スマート社会）」の実現を掲げています。

Society5.0 で実現する社会

出典：内閣府「Society 5.0『科学技術イノベーションが拓く新たな社会』説明資料」



³ 科学技術の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画であり、今後10年程度を見通した5年間の科学技術政策を具体化するものとして、政府が策定。

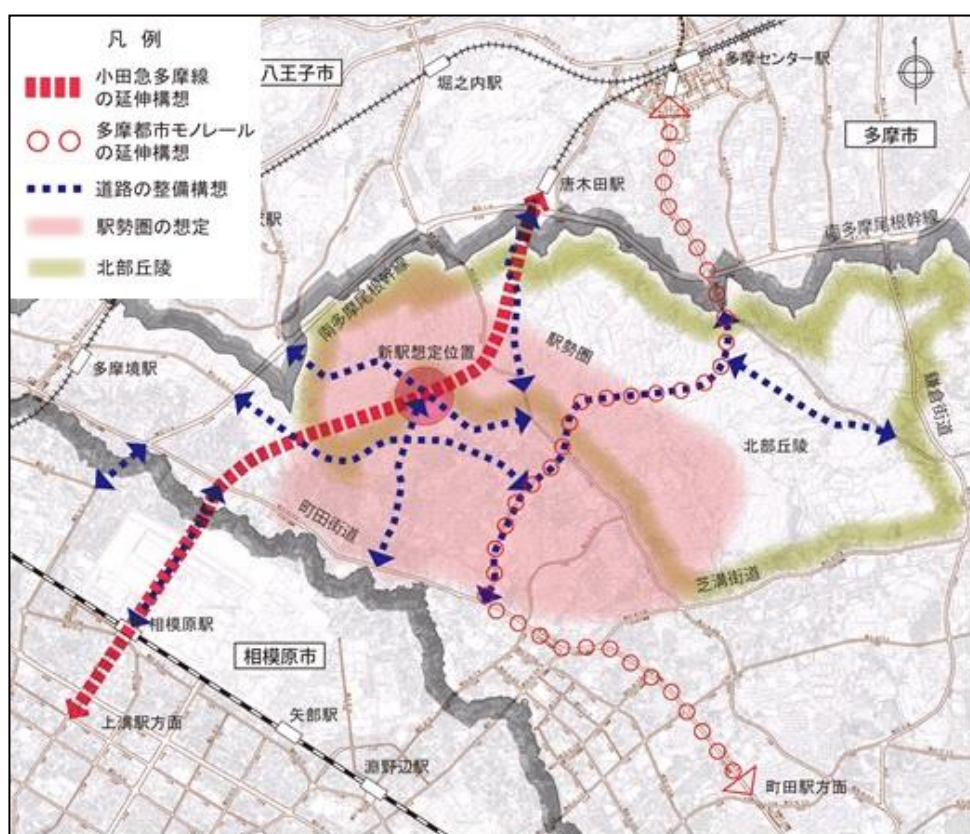
(3) 都市構造の変化

<小田急多摩線、多摩都市モノレールの延伸>

○2016年4月、国土交通省交通政策審議会の「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申の中で、現在、新百合ヶ丘から唐木田まで運行中の小田急多摩線の延伸（唐木田～相模原～上溝）と、上北台から多摩センターまで運行中の多摩都市モノレールの延伸（多摩センター～町田）の延伸が盛り込まれています。両路線の延伸の意義として、小田急多摩線の延伸では、町田市及び相模原市と都心部とのアクセス利便性の向上、多摩都市モノレールの延伸では、多摩地域の主要地区間のアクセス利便性の向上がうたわれています。

「小田急多摩線」「多摩都市モノレール」の延伸の位置

出典：町田市「小田急多摩線延伸新駅を中心とした小山田周辺まちづくり構想」



<リニア中央新幹線の開業>

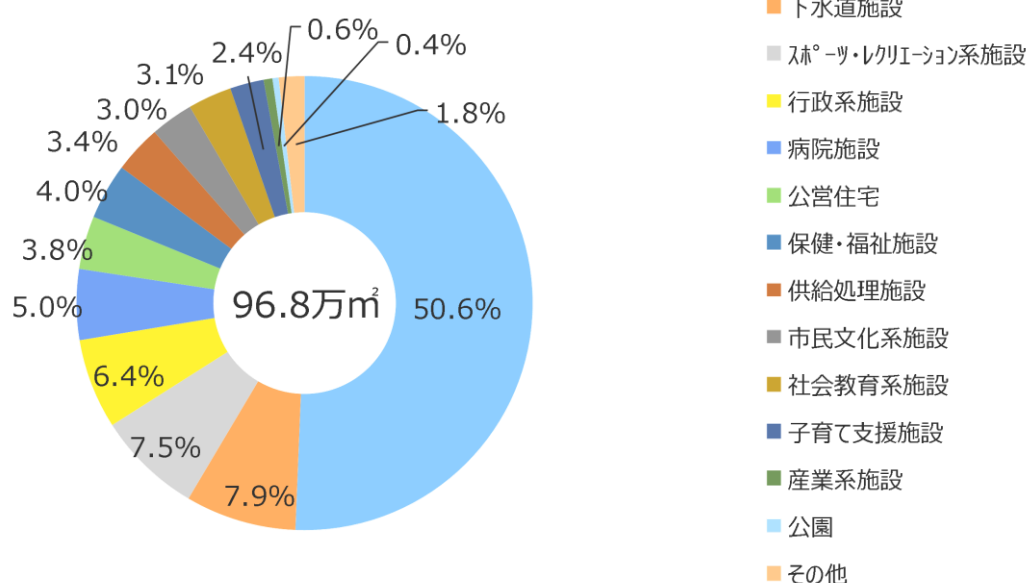
○リニア中央新幹線は、現在2027年に予定されている東京・名古屋間の開業に向け、営業・建設主体である東海旅客鉄道株式会社（JR東海）によって整備が進められており、JR東海が2013年9月に公表した環境影響評価準備書の中では、中間駅の1つが近隣の相模原市の橋本駅付近に設置されることが示され、2014年10月には全国新幹線整備法に基づく工事実施計画が認可されています。

(4) 公共施設の老朽化

○町田市では、1960年代後半～1980年代前半にかけて学校教育系施設を中心に多くの公共施設を整備してきました。施設分類別の延床面積では、総延床面積96.8万㎡のうち、学校教育系施設が50.6%と過半を占めています。また、築年数別の延床面積では、築30年以上の施設の延床面積が54.1%と半数を超え、市全体として老朽化が進んでいる状況となっています。

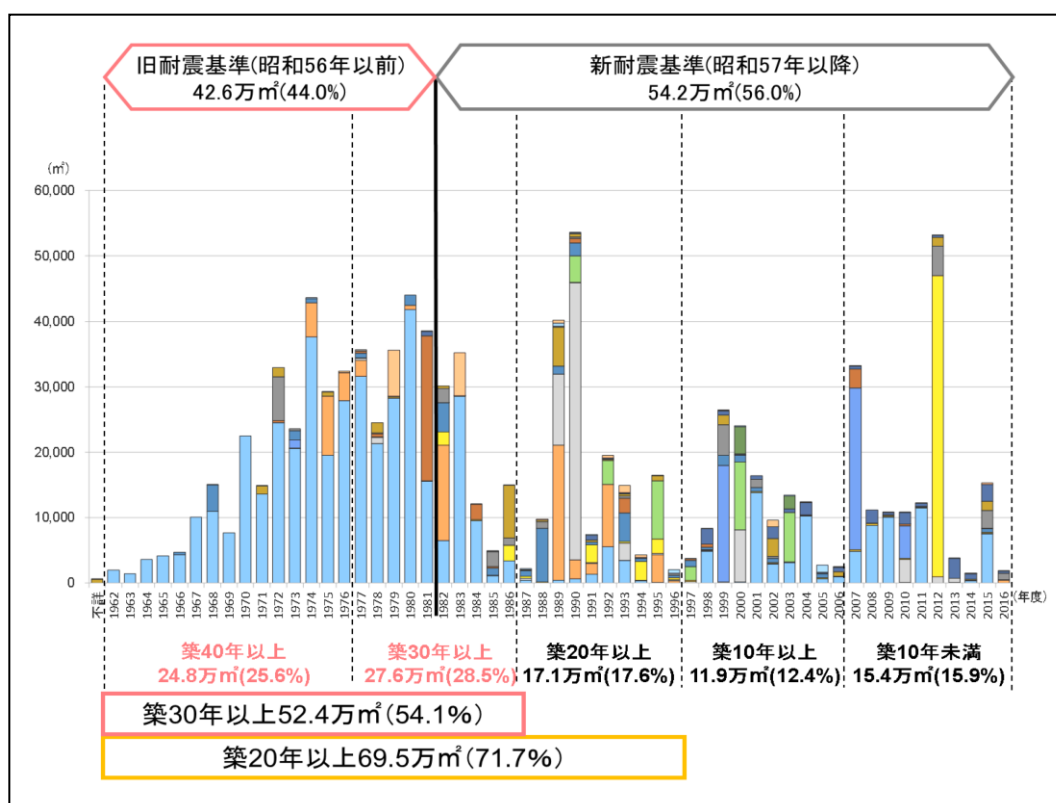
町田市における公共施設の施設分類別延床面積の構成比（2016年度末）

出典：町田市「公共施設再編計画」



町田市における公共施設の建築年別延床面積割合（2016年度末）

出典：町田市「公共施設再編計画」



キャッチコピー候補について

まちづくりの方向性やなりたいまちの姿から表される2040年の未来の町田市のイメージを一言でいうと、どんな言葉がいいか、高校生とのワークショップや無作為抽出型市民ワークショップで案を考えました。さらにそこでの検討内容を踏まえて、庁内の策定検討チームでも案を考え、長期計画審議会において最終候補を3つに絞りました。2020年秋頃を目途に、市民等による投票を実施してキャッチコピーを決定していきます。

高校生ワークショップ案

- ・気が付いたら、ファミリー。
- ・わたしの暮らしが選べるまち
- ・ちょうどいいが生まれるまち

無作為抽出型市民ワークショップ案

- ・暮らす 遊ぶ 生きる まちだ
 - ・ずっと、また、いたい、来たい、まち。
- ほか27案

庁内検討チーム案

- ・なんだ かんだ まちだ
 - ・未来につながる東京のはし
- ほか23案

長期計画審議会では最終候補を選定

最終候補

- もっといういいコトふくらむまちだ
- ずっと、もっと、ふくらむ町田
- まちだでつくるあなたの物語

(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040 (仮称)2040なりたい未来(基本構想素案)

パブリックコメント手続に関するスケジュール

